

「空港土木施設の設計手法検討委員会（第2回）」の開催結果について

国土交通省航空局では、これまで検討してきた空港の安全性向上を、空港土木施設の設計に反映するため、空港土木施設の設計手法の見直しを予定しています。このため、平成20年3月に「空港土木施設の設計手法検討委員会」を設置し、第2回委員会を下記のとおり開催しましたので、お知らせします。

1. 日時

平成20年4月24日（木）10：30～12：30

2. 場所

国土交通省（中央合同庁舎3号館）4階特別会議室

3. 委員等名簿

委員長	善 功企	九州大学大学院工学府建設システム工学専攻 教授
委員	福手 勤	東洋大学工学部環境建設学科 教授
	藤吉 洋一郎	大妻女子大学文学部 教授
	東畑 郁生	東京大学大学院 教授
	坂東 俊夫	新航空輸送システム技術研究組合 事務局長
	林 憲司	成田国際空港(株) 工務部長
	佐藤 清二	関西国際空港(株) 施設整備本部計画技術部長
	上用 敏弘	中部国際空港(株) 空港施設部長
	山田 了一	全国空港建設整備促進協議会 会長代理
関係者	戸田 和彦	国土交通省航空局飛行場部 建設課長
	辻 安治	国土技術政策総合研究所 空港研究部長
	北詰 昌樹	(独)港湾空港技術研究所 空港研究センター長

4. 議事概要等

別紙のとおり。

委員会資料は、国土交通省ホームページ報道発表資料の当該件名をご覧ください。

【問い合わせ先】

航空局飛行場部建設課 麻山(内線49503)
伊藤(内線49519)
03-5253-8111(代表) 03-5253-8727

空港土木施設の設計手法検討委員会（第2回）

開催場所：国土交通省（中央合同庁舎3号館）4階特別会議室

開催日時：平成20年4月24日（木）10：30～12：30

議事メモ（概要）

- 安全・安心の観点から性能規定を行政がしっかり整理しておく必要がある。
- 性能規定化が何を目指しているのか理念を整理する必要がある。
- 性能規定とみなし規定が整合するよう、しっかり整理する必要がある。
- 性能規定化に当たっては、具体的な事例をもとに説明すると規制緩和が図られているかどうか分かり易い。
- 性能規定による設計を推進するには、設計者や空港の管理運営者のモチベーションを上げる工夫が必要である。
- 滑走路の強度等は数字で決められるが、標識等は、空港毎に配慮すべき事項が異なることから、具体的な基準として示し難いので、設計者は、パイロットと同じ視点で見て貰うようにすべきである。
- 安全性の向上について、どこの空港でどの様な検討が実施されているのか、空港管理者に情報発信を実施して頂きたい。
- 委員会においては、設計手法の見直しについて、大体の方向性をご議論頂いたので、今後はこれ踏まえて、具体的な内容を行政で作業頂きたい。